

ほほえみ活力朝礼

信州信濃町黒姫山麓にある黒姫和漢薬研究所の朝は早い。

雪国信州の中でも豪雪地帯であるこの地で、早朝より社員全員で雪かきをして、8時15分の朝礼が始まる。創業者であり「ほほえみ読本」の編著者でもある狩野誠の志を受け継いだ朝

礼委員長
市橋小由利さんは



市橋小由利 朝礼委員長

「ほほえみ」と云いながら、3回口角を上げるように微笑むと、朝のスタートに元気が沸いてくるんです。『ほほえみ読本』をページずつ社員一同で音読します。」と笑顔で答えてくれた。包装部主任の蔵あき子さんは「泣いたり怒ったりするより、笑顔の方がいいからと先代はいつも微笑んでいま



蔵あき子 包装部主任

した。」と思い出を語ってくれた。また「商品や機械に笑顔で心と祈り

を込めて『ありがとございませう』と感謝し、お客様にお届けする。それが私たちの仕事です。」そう胸を張って答えてくれた。

以下は、市橋朝礼委員長が「ほほえみ読本」の一節より抜粋、作成した「ほほえみ練習法」の菜

ほほえみを磨く

— ほほえみ練習法 —

ほほえみは鏡のように、いつも磨かないと、すぐくもってしまいます。

ほほえみはお湯のように、いつも温めないと、元の水になってしまいます。

ほほえみは呼吸のように、絶えず続けないと、すぐ詰まってしまう。

「ほー」唱（しょう）

ほほえみの「ほ」を腹式呼吸の要領で息を吐きながら「ほー……と静かに口の中で次に「ほーほーえーみ」と唱えてみましょう。

実行している全社員の一日は笑顔にあふれている。



狩野翠 5歳

ほほえみいっぱい運動

（株）黒姫和漢薬研究所
元トリノ五輪日本代表クロスカントリースキー

駒村俊介

こまむらしゅんすけ



私は現在、冬はクロスカントリースキーヤーとして各地を転戦し、夏場は営業部の一員として業務に専念する日々を過ごしております。

サラリーマンスキーヤーという言葉がぴったりくるかと思えます。スキーヤーとしての主な戦績は全日本選手権、国体での優勝、'05年ドイツオーベルストドルフ世界選手権、'06年イタリアトリノオリンピック、'07年札幌世界選手権出場です。

'08年シーズンインを目前に当時の所属チームが突然の解散、五里霧中の私は以前トリアスロンの大会に参加する際にサポートしていただいたことのある、狩野土社長に相談しましたところ黒姫和漢薬研究所の社員として採用をしていただきました。結果として出場することは叶いませんでしたが10年のバンクーバーオリンピックを目指すところまで選手活動に専念させていただきました。

そのころまでは朝起きてご飯を食べてトレーニングを開始し体調と記録だけに気を取られる毎日でしたが、今では会社員として「ほほえみ朝礼」

に参加することによって「今日も一日頑張るぞ」とスイッチが入ります。また、社内で朝礼委員にもなりましたので人一倍毎朝ほほえむことによって朗らかな優しい気持ちになります。

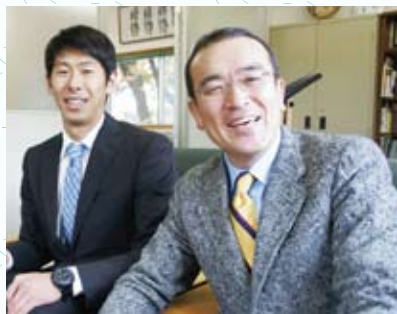
心からのほほえみをするることによって相手の方も気持ちがいいでしょうし、ほほえみを返してくださいます。

常に勝たなくてはならない世界に身を置き、相手のことなど気にせずに自分自身と闘っていた数年前には想像もできませんでしたが、ほほえんで挨拶をしている毎日がとても新鮮で楽しく何よりもその日一日を穏やかに過ごすことができています。

以前の私はオリンピックやワールドカップを狙えなくなったらスキーをやめるものと思っていたし、必死になって身に着けた技術や知識は自分のためだけのものだと考えておりました。

しかし今はそれを人に伝え、若い選手を育てることも自分の役割だと思えるようになりました。この気持ちの変化が狩野社長に出会い、「ほほえみ朝礼」によって一番大きく変わった点です。

このようなチャンスを頂いた感謝の気持ちを、ほほえみという形にして多くの方にお返しして参りたいと考えております。



黒姫和漢薬研究所にて
左から 駒村さん・狩野社長